

## 製品名 ナウワイド

本書をよくお読みのうえ作業を行ってください。

また、お読みになったあとは、本書はいつでも取り出せる場所にならず保管してください。

- ※ 本書による作業は、弊社とご契約いただいているレンタル事業者様に限ります。
- ※ 作業後のトラブル等については、弊社では責任を負いかねます。あらかじめご了承お願いいたします。
- ※ 修理品の代替品について、発送と返却の費用はお客様負担となります。あらかじめご了承お願いいたします。

### <もくじ>

- P.1 ……作業前の確認事項、作業時の注意事項
- P.2 ……各部名称
- P.3 ……座面交換方法
- P.4 ……肘置き交換方法
- P.5 ……ハンドルグリップ(長)交換方法
- P.6 ……ハンドルグリップ(短)交換方法
- P.7 ……ブレーキゴム交換方法
- P.8 ……ブレーキ調整方法
- P.11 ……ブレーキワイヤー交換方法
- P.16 ……後輪交換方法
- P.18 ……前輪交換方法

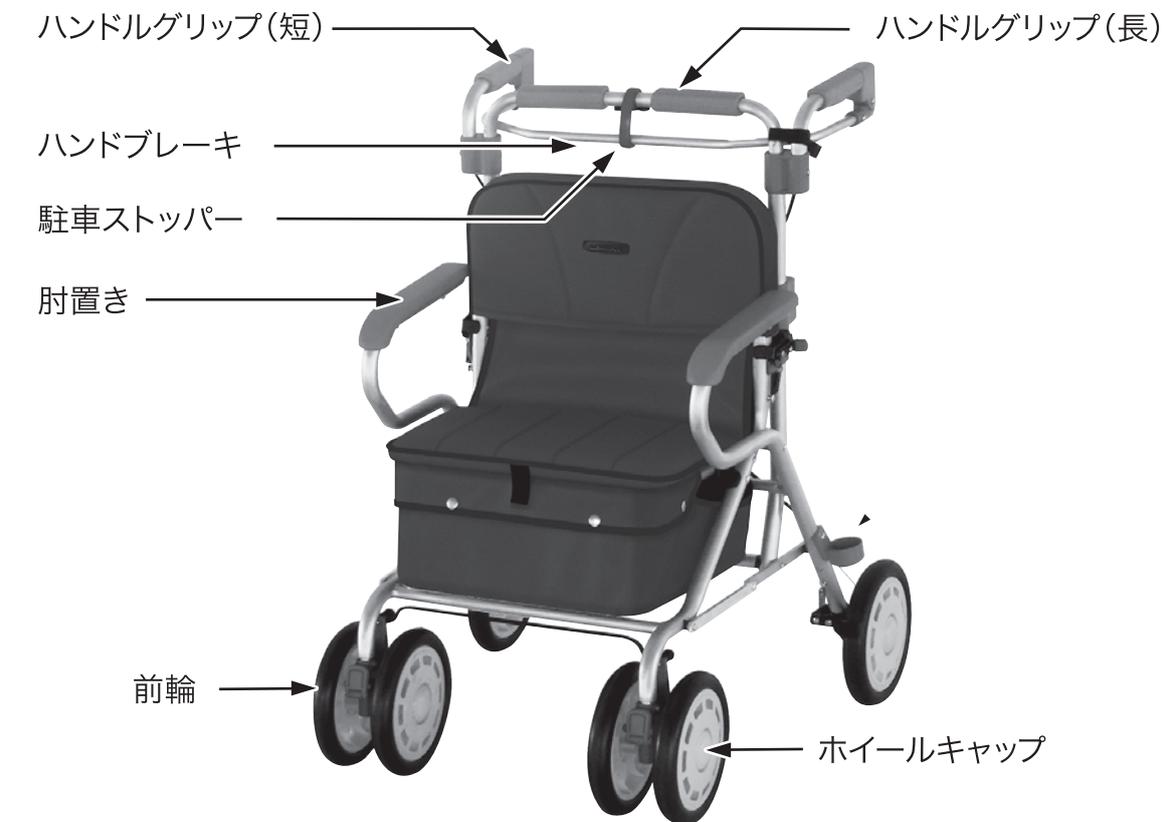
## 作業前の確認事項

- 駐車ストッパーおよびハンドブレーキが確実に動作するか確認してください。
- 車体を押したときにまっすぐ走るか確認してください。
- 全ての車輪が均一に地面に接地するか確認してください。
- タイヤおよびブレーキの摩擦、変形などが点検し、必要に応じて交換してください。
- 車体の開閉がスムーズに行えるか確認してください。
- 製品各部のカシメ、ネジ、ナットの緩みおよび破損がないか確認してください。

## 作業時の注意事項

- 作業時にワイヤーが破損しないように注意してください。
- 車輪のナットの締め付けが緩いと脱落の恐れがあるので注意してください。
- 組立調整は確実に行ってください。

## 各部名称



## 座面交換方法



- ① 本体を、開閉レバーが水平になるまで折り畳んでください。



- ② 8mmボックスドライバーまたは、スパナにてナットを外してください(反時計回りで外れます)。



- ③ Uボルトを交換する座面に差替え、逆の手順で固定してください。



座面はUボルトの前輪側ではなく、背もたれ側に取り付けてください。

## 肘置き交換方法



- ① プラスドライバーでネジ(2カ所)を外してください。
- ② 外した時の逆の手順で取り付けてください。



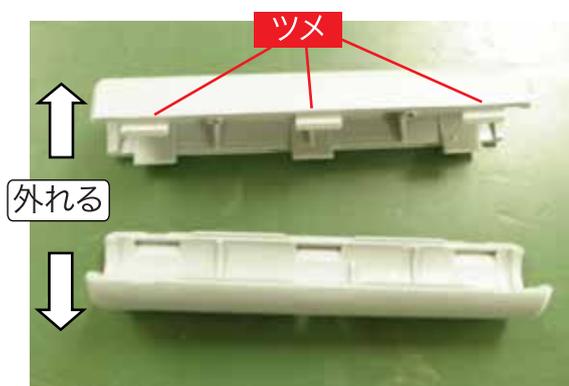
注意

- ・取付後、ぐらつきがないか確認してください。
- ・ネジは確実に締めてください。

## ハンドルグリップ(長)交換方法



① プラスドライバーでネジ(1ヶ所)を緩めてください。



② 間にマイナスドライバーを入れて、ツメ(3ヶ所)を外すと上下に取れます。



③ 外した時の逆の手順で取付けてください。  
※突起がパイプの穴に合うようにしてください。



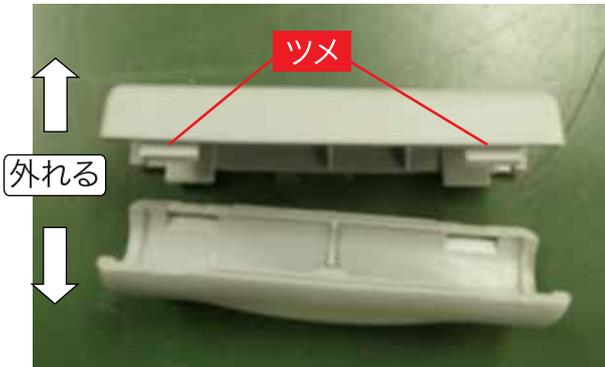
注意

- ・取付後、ぐらつきがないか確認してください。
- ・ネジは確実に締めてください。
- ・指をはさまないように、ご注意ください。

## ハンドルグリップ(短)交換方法



① プラスドライバーでネジ(1ヶ所)を緩めてください。



② 部品の間隙にマイナスドライバーを入れて、ツメ(2ヶ所)を外すと上下に取れます。



③ 外した時の逆の手順で取付けてください。

※突起がパイプの穴に合うようにしてください。

※端から突起までの間隔が長い方が前、短い方が後です。



注意

・取付後、ぐらつきがないか確認してください。

・ネジは確実に締めてください。

・指をはさまないように、ご注意ください。

## 部品交換方法

### ◆ブレーキゴム交換方法



- ① ブレーキゴムを車体の外側方向に少しづつ引っ張って外してください。  
無理に引っ張ると、ブレーキ金具が変形する恐れがありますのでご注意ください。  
(外れない場合は、ナイフ等でブレーキゴムの一部を切断すると外しやすくなります。)

ブレーキゴムの中央部を切断する



- ② 外した時の逆の手順でブレーキゴムを取り付けます。  
ブレーキ金具が変形しないように、金具の裏側を指で押さえてブレーキゴムを差し込んでください。  
(ブレーキゴムが入りにくい場合は、40°C以下で温めると入りやすくなります。)



注意 ブレーキゴムの取り付け部に油やグリスを塗布しないでください。



- ③ ブレーキゴムの穴の奥に、ブレーキ金具の先端が届くまで差し込んでください。



注意 ブレーキ金具が変形して、外側に開いていないことを確認してください。



ゴムが奥まで入っていない

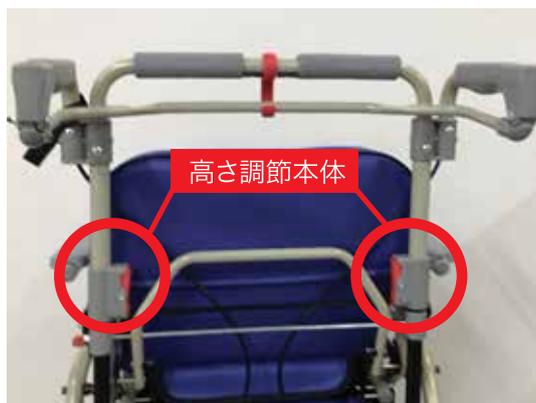


金具が変形している



注意  
・ブレーキゴム交換後は、必ずブレーキ調整を行ってください。  
・ブレーキは左右が同調するように調整してください。

## ブレーキ調整方法



- ① ハンドルの高さ調節を一番下にしてください。  
※高さ調節本体が下にさがっている状態



- ② ハンドブレーキを駐車ストッパーから外してください。  
※ハンドブレーキが図のように、下へさがります。



- ③ 調整ネジが一番下に下りているか確認してください。  
※時計回りで下に下ります。



- ④ ブレーキワイヤーの固定ナットを緩めてください。  
※ 安全のため、ワイヤー先端はパイプ方向へ巻き込んでいます。

## ブレーキ調整方法



⑤ ブレーキ金具の「く」の字部がホイールのラック溝へはまるか確認してください。

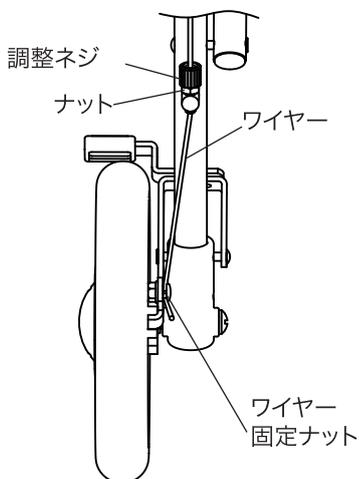
※ ブレーキ金具またはホイールのラック部分が破損・磨耗している場合はブレーキが効かず事故につながる恐れがありますので、部品を新品に交換願います。



⑥ ブレーキワイヤーをプライヤー・ペンチ等で引っ張り、ワイヤーが張った状態で固定ナットを締め付けて固定してください。

※ ワイヤー先端は危険ですので、本体パイプ側に巻き込んでください。

※ ワイヤー先端が破損している場合は、先端をテープ等で巻くか、人身に危険のないように養生してください。



⑦ 駐車ストッパーが効いているか確認してください。

※ ブレーキ金具とホイール側ラック部にはあそびを設けており、多少のガタツキはありますが、ブレーキ金具「く」の字部が確実にラック溝に入っていれば問題ありません。

※ ブレーキの微調整は、調整ネジで左右行ってください。調整は調整ネジ下のナットを緩めてから行い、調整後は再度ナットを締めてください。(左図)

※ 車体を数回前進・後退させて、効きの確認を行ってください。

## ブレーキ調整方法



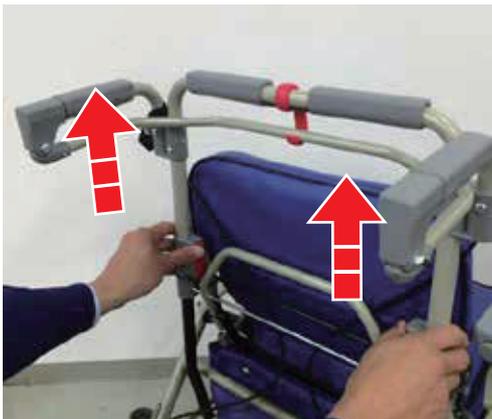
⑧ ハンドブレーキを駐車ストッパーに掛けた状態で、ブレーキゴムとタイヤの隙間を確認してください。

※ ブレーキゴムとタイヤの緩衝するようであれば、再度調整を行ってください。隙間は、約1.5mmが適切です。



⑨ ブレーキ金具とタイヤの隙間が広すぎたり、狭すぎる場合は、調整ネジで微調整してください。金具を変形させて隙間を広げることはしないでください。

※ 調整ネジは、反時計回りでワイヤーが張り、隙間が縮まります。



⑩ ハンドブレーキを握り、左右ともブレーキがかかっているか確認してください。

※ ハンドルの高さは3段階ですので、各高さで確認してください。

※ 稀にワイヤーのライン状態がブレーキに影響する場合があります。ワイヤーが左右対称のラインになっているか、パイプに異常な接触をしてないかを確認してください。



ブレーキの調整後は、必ずハンドブレーキを操作し、ブレーキが確実に効くことを確認してください。

## ブレーキワイヤー交換方法



① ハンドブレーキを駐車ストッパーから外してください。

※ ハンドブレーキが図のように下へさがります。



② ブレーキワイヤーの固定ナットを緩めます。

※ 安全のため、ワイヤー先端はパイプ方向へ巻き込んでいます。



③ ワイヤー先端のキャップを外して、ワイヤーを後輪から上に引き抜きます。



## ブレーキワイヤー交換方法



ワイヤーを引き抜いた状態



④ ハンドルグリップ(短)を外し、ハンドブレーキをハンドルから外します。

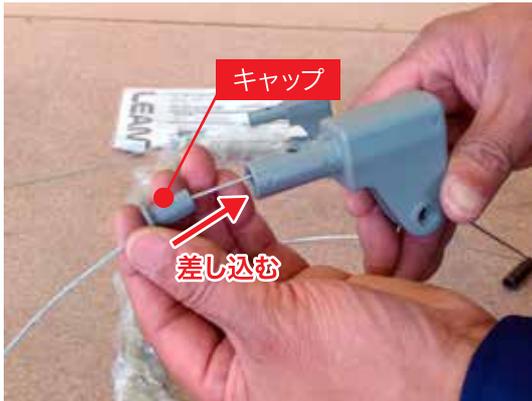
※ ハンドルグリップ(短)の外し方はP.5をご参照ください。

⑤ ワイヤーをアウター(ワイヤー外側の黒いチューブ)から引き抜きます。

⑥ ブレーキユニット側面のナットを外してブレーキユニットのカバーを外し、ワイヤーを引き抜きます。逆の手順で、新しいワイヤーをユニットに通します。



## ブレーキワイヤー交換方法



- ⑦ ブレーキユニットのカバーを取り付け、キャップを差し込みます。



- ⑨ アウターにワイヤーを差し込みます。  
※ アウターの先端は必ずブレーキユニットのキャップ奥まで差し込んでください。

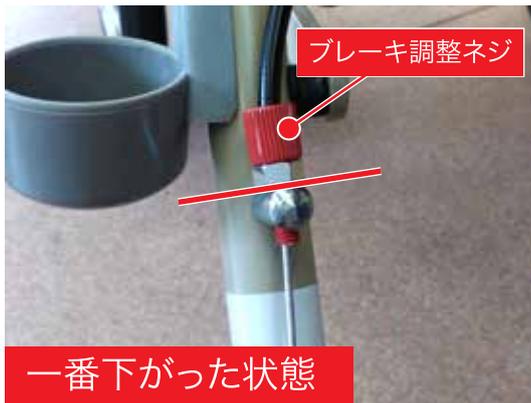


- ⑩ ハンドブレーキをハンドルに取り付け、P.5の手順でハンドルグリップ(短)を取り付けます。  
※ ブレーキユニットの切欠き部分を合わせてください。

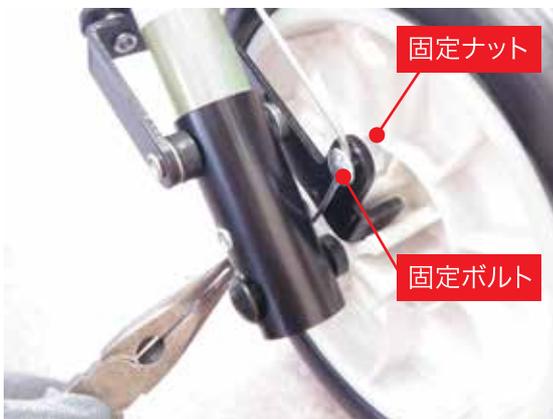


- ⑪ ブレーキワイヤーがパイプの間に挟まらないよう調整します。

## ブレーキワイヤー交換方法



- ⑫ ブレーキ調整ネジにワイヤーを通し、調整ネジを一番下まで下げます。



- ⑬ ワイヤーを固定ボルトの穴に通し、プライヤー・ペンチ等で引っ張りながらワイヤーが張った状態で固定ナットを締め付けて固定してください。



- ※ ワイヤー先端は危険ですので、本体パイプ側(車軸より前側)に巻き込んでください。(左図)

## ブレーキワイヤー交換方法



⑭ ワイヤー先端にキャップを取り付けます。

※ ワイヤー先端が破損している場合は、先端をテープ等で巻くか、人身に危険のないように養生してください。



⑮ 駐車ストッパーとハンドブレーキが効くことを、P.8⑦～P.9⑩の手順に従って確認してください。

※ 必要であれば、P.7～9の手順で調整してください。



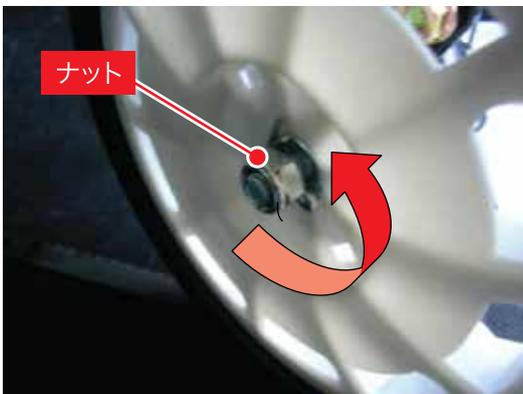
注意

ブレーキワイヤーの交換・ブレーキ調整後は、必ずハンドブレーキを操作し、ブレーキが確実に効くことを確認してください。

## 後輪交換方法



- ① マイナスドライバー等をホイールキャップとタイヤの隙間に入れて矢印の方向へ外してください。



- ② ナットを緩めてください。



- ③ 割りピンをまっすぐに矯正し、ペンチ等で車軸から抜いてください。



## 後輪交換方法



④ ワッシャーを抜き、タイヤを外してください。



⑤ タイヤを新品に交換し、外した時と逆の手順で取り付けてください。

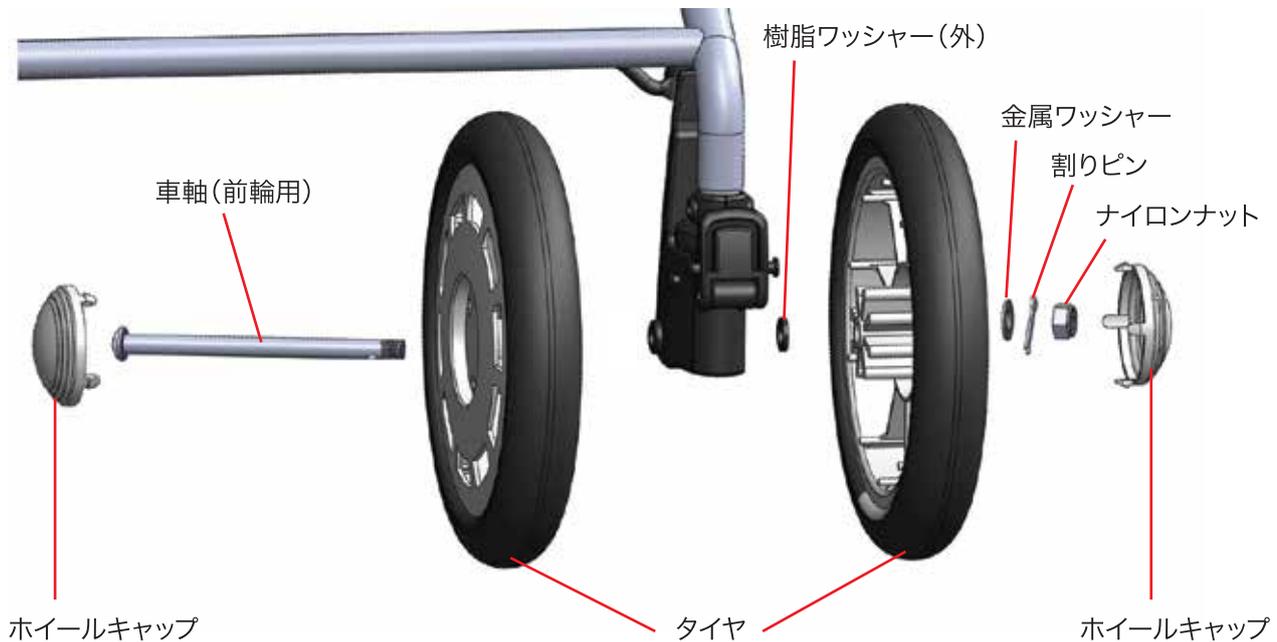
※割りピンを曲げ開いて車軸が抜けないようにしてください。

⑥ ブレーキ調整を行ってください。(調整方法はP7～P9)



ブレーキの調整後は、必ずハンドブレーキを操作し、  
ブレーキが確実に効くことを確認してください。

## 前輪交換方法



※前輪は、タイヤが2つになっているだけで、交換方法は後輪と同じです。

(後輪の交換方法はP15～P16)

※前輪と後輪は使用している車軸の長さが違います。

### ご使用後のお手入れ・保管方法・廃棄について

- ・ 使用後は車輪に付いた水や砂などをふき取ってください。
- ・ 直射日光のあたらない冷暗所に保管してください。
- ・ 荷物を重ねたり、圧力が加わるような状態で保管しないでください。
- ・ お子様の手の届かないところに保管してください。
- ・ 製品を第三者に貸与したり譲渡したりする場合には、取扱説明書を必ず添付し、取扱方法を十分に説明してください。
- ・ 廃棄の際は、お住まいの自治体の廃棄物処理方法に従ってください。

製品の破損や異常を発見した場合は、ただちに使用を中止し、ご購入販売店もしくは弊社お客様相談室までご連絡ください。

そのまま使用しますと、重大な事故につながる危険があります。

**リーマン株式会社** 〒496-0911 愛知県愛西市西保町南川原 68-1

お客様相談室

**TEL.0567-27-0173**

受付時間  
月曜日～金曜日（祝日・弊社指定休日は除く）  
AM10:00～12:00 PM1:00～5:00